



日本医療機能評価機構 認定病院

庄原同仁病院
広報誌 第30号

発行 庄原同仁病院広報新聞委員会
〒727-0203 庄原市川北町890-1
Tel:0824-72-7300 Fax:0824-72-7333
e-mail doujin@sweet.ocn.ne.jp
URL <http://nagaekai.com/>

歩歩是道場

院長 村尾 文規



わたしたちは、修行のための最高の場に立っているのだから、もっと日々の仕事に打ち込むべきである。その一步一步が修行の場である。『随処に主なれば、立処みな真なり』もまた、ただその場その場で一生懸命に行動すれば真理から離れることはないという教えである。その職場で、最近、『ありがとう』という感謝の言葉が飛びかうようになり密かに喜んでいる。ビジネス業界に身を置く経営コンサルタントの船井幸雄氏の著書を引くと、世のなかのすべての事象は必然、必要であり、すべて肯定し、感謝して、いつも楽しくワクワクして生きることが幸福の条件であるという。日々仕事を共にしている同僚は最も身近な存在であって、もっとも遠慮を必要とする存在でもある。つまり同僚について遠い先々まで考える存在でもあるはずであるからだ。遠慮には負のイメージがあるが、そうではない。3人寄れば文殊の知恵、中国の哲学書、淮南子には、1から2、2から3、3から万物が生まれる（一生、二生、三生万物）という言葉が残されている。独りではなにもできないのだから、他者である同僚に遠慮することは計り知れない益をもたらすことになるからである。

同僚を大切に思い『ありがとう』という感謝の言葉を言い交わすことは、確実に人間関係を改善する、天台宗大阿闍梨酒井雄哉師は、修行の極意を『今』という時を大切にすることだと言い、『今日のことだけ、今できることをやればいい』と論ず。修行に出かける前に、今日もこのように出かけることができる。ありがたいことだと思って出かける。修行の一日が終わると、無事に終わりました、ありがとうございます、と仏さまにご挨拶をされたという。修行の中で、とても大切なことは『ありがとう』という言葉である。

人は支えられながら生きている。複雑な人間関係のなかでは、当然、問題を複雑に捉えるのが常であるが、もっとシンプルにとらえていいのではないかとさえ思う。

『今日のことだけ、まず考えてみる』。目先の仕事に没頭してみる。自分の都合に合わせないで、周りの人のためになることを考えてみる。これこそが、生き方の極意かもしれないのであるから。



基本理念

わたくしたちは、すべての人に等しく

仁愛の精神をもって接し、

心の通う医療の実践に努めます。

基本方針

患者様の満足:常に患者様の立場に立って行動します。

職員の満足:働きやすく、やりがいのある職場づくりに努めます。

地域の満足:医療サービスを通じて地域の方々に喜ばれるよう努めます。

平成26年度 第6回 看護部研修会

ポジショニング

7月16日看護部、排泄委員会を中心にポジショニングについて院内研修を行いました。

当院では、疾患のため1日中ベッド上で過ごされている患者さんも多く、四肢拘縮、円背のある方も多くおられます。毎日定期的な時間に褥そう(床ずれ) 予防対策のため、寝返りをすることができない患者さんに対して、看護師・ケアワーカーが2人のペアで体位変換をするようにしています。拘縮のある方には、その人に合ったクッションを拘縮部位に入れ、拘縮の進行予防に努めています。また作業療法士が計画的に個人に合った機能訓練を行っています。

さて、前置きが長くなりましたが、今回の研修「ポジショニング」についてです。ポジショニングの役割として次の4点があります。

- ①体圧を分散する
- ②身体を支える
- ③緊張を緩和する
- ④正しい姿勢をつくる

四肢拘縮や円背の方でもポジショニングをすることで、マットレスとの接触面積が増え、十分な体圧分散が可能になります。上手なポジショニングは療養者(患者さん)を安楽な状態にさせることができるため、緊張感が緩和され、四肢拘縮を緩和させるという報告も多く挙がっています。

体位変換をしていれば大丈夫?という訳でもなく、仰向け(仰臥位)で寝ている人を横向き(側臥位)にすれば、体重を受ける面積が減りますので、仰向けの時よりも局所に体圧が集中して、場合によっては、かえって状況を悪くすることもあるので注意が必要だということ学びました。

また、自分自身、ポジショニングに関しては、知識、技術共にまだまだ力量不足であることを自覚しました。患者さん一人一人の身体を将来どのようにしたいかを考え、今後も新しく正しい知識、技術を勉強し、患者さんの笑顔の時間を少しでも増やしていけるよう院内研修を続けていきます。

看護部 伊達信介



栄養相談のご案内

食を通して皆様の健康な生活のお手伝いをします

例えば…

- ・入院しているおばあちゃんがどんな食事を食べているのか教えてほしい
- ・血圧やコレステロールが高いと言われたが、食事はどんなことに気をつければよいか
- ・お茶などの飲み物にトロミをつけるには、どのようなものを使えばよいか

などなど、食事に関することは何でもご相談下さい。
パンフレットなどを使い、わかりやすくご説明いたします。
相談は直接、栄養課事務室にお越しください。



曜日：月曜日 ~ 金曜日

時間：10:30 ~ 12:00

場所：栄養課 事務室

平成25年度 庄原同仁病院診療実績報告

※病床数104床 (介護療養病床40床 医療療養病床64床)

入院患者実人数	141人		
新規入院患者数	40人 (再入院を含まず)		
入院患者男女比	男性	54人	38%
	女性	87人	62%
入院患者平均年齢	全体	85.9歳	
	男性	83.3歳	
	女性	87.4歳	
入院患者住所地	旧庄原市	88人	62%
	三次市	10人	7%
	高野町	10人	7%
	比和町	10人	7%
	東城町	7人	5%
	口和町	4人	3%
	西城町	4人	3%
	総領町	4人	3%
	その他	4人	3%
退院患者数	63人		
退院理由	死去	49.2%	
	転院	47.6%	
	自宅退院	1.6%	
	施設入所	1.6%	

平均在院日数	全体	介護病床	医療病床
	555.6日	1251.1日	407.5日
病床稼働率	全体	介護病床	医療病床
	96.1%	98.5%	94.6%
入院患者介護度 (介護病床)	要介護3	要介護4	要介護5
	5.5%	40.8%	53.9%
入院患者医療区分 (医療病床)	医療区分1	医療区分2	医療区分3
	9.7%	43.6%	46.7%

褥瘡推定発生率	3.8%			
経管栄養実施患者数	43人 (30.5%)			
臨床検査件数	血液学検査	1,214件	腫瘍関連検査	22件
	生化学検査	744件	内分泌学検査	81件
	微生物学的検査	1,462件	病理検査	2件
	免疫血清学検査	1,056件	薬物検査	188件
	一般検査	2,679件		
X線一般撮影件数	胸部	171件		
	その他	10件		

リハビリ件数	介護病床	総件数 (20分~40分/件)	2,709件	
		内訳	理学療法 I	329件
			作業療法	2,380件
	医療病床	総件数 (20分~40分/件)	2,361件	
		内訳	脳血管疾患等	1,109件
			運動器	1,010件
	呼吸器	242件		
摂食機能訓練件数	941件			

Topics

アクティビティ行事「七夕会」



7月7日に七夕祭りを行いました。今年は、七夕にちなんだ紙芝居や笹の飾りつけをし、七夕の歌や長寿節を歌いました。患者さんも元気よく歌って下さり、素敵な笑顔がたくさんみられました。職員は浴衣などそれぞれに仮装をして参加し、患者さんから「夏らしいね」と言って頂き、ささやかながら夏を感じてもらえたことと思います。また、このような季節にちなんだ行事を患者さんと一緒にできたらと思います。(アクティビティ委員 末元千晶)



地域交流 川北小学校児童来院



5月27日、川北小学校より生徒の皆さんが慰問に来院されました。曾孫くらいの年ごろの皆さんの姿に、患者さんは嬉しそうに目尻を下げていらっしゃいました。自己紹介や歌、手遊び、肩たたきといった触れ合いに、楽しい一時を過ごされたのではないかと思います。皆さんの元気いっぱいの姿に、患者さんや私たち職員も元気と笑顔を貰ったような気がしました。これからも慰問に来ていただくと嬉しいと思います。川北小学校の生徒の皆さん、ありがとうございました。(レクリエーション係 岩花和恵)



～ 山ちゃんの旅日記～

看護部 山吉広尚

僕の地元、吉舎町で第27回ふれあい祭りが8月15日18:00から雨の中行われました。場所は三次市吉舎支所周辺で1年で1番賑やかな一日となります。小灯ろう、手作り灯ろうを合わせて約5000個飾っており、特に手作り灯ろうは個人、団体12組が出展して順位を競います。他のイベントも行って、最後に大花火大会が行われましたが、あいにくの雨で煙がなかなか消えなかったりしてきれいに見えませんでした。是非、今度祭りを見に来てください。



馬洗川に浮かぶ5000個の灯籠

新入職員紹介



藤原久美子
(看護部)



藤原かおり
(看護部)

6月から入職しました藤原久美子です。7月から入職しました藤原かおりです。体型、性格も全く違いますが、実は親子です。早く仕事に慣れ、ゆとりのある看護、介護ができるように頑張ります。職場のスタッフさんにも慣れて楽しく仕事がしたいです。これからもお願いします。



佐々木優希
(看護部)

佐々木優希と申します。私の名前の由来は、優しく希望を忘れてほしくないと母が名づけてくれました。名前の通り優しさを忘れず、新卒ですが、一生懸命頑張ります。

編集後記

8月に入り、梅雨に逆戻りしたかのような、いつもと違った今年の夏も、終わりをむかえようとしています。「ながえの里だより」は年4回発刊の四季号を目指してきましたが、夏号の発刊は諸事情の為5年ぶりになりました。病院の情報を四季とともに伝えていこうと、広報委員が奮起し今回の夏号を発刊することができました。また、この秋にはホームページのリニューアルも計画しています。ホームページを閲覧される方に、見やすく、そして分かりやすく情報をお伝えできるように、現在、準備を進めています。新しいホームページができましたら本誌でも紹介させていただきますので、是非一度ご覧になって下さい。(末藤)